

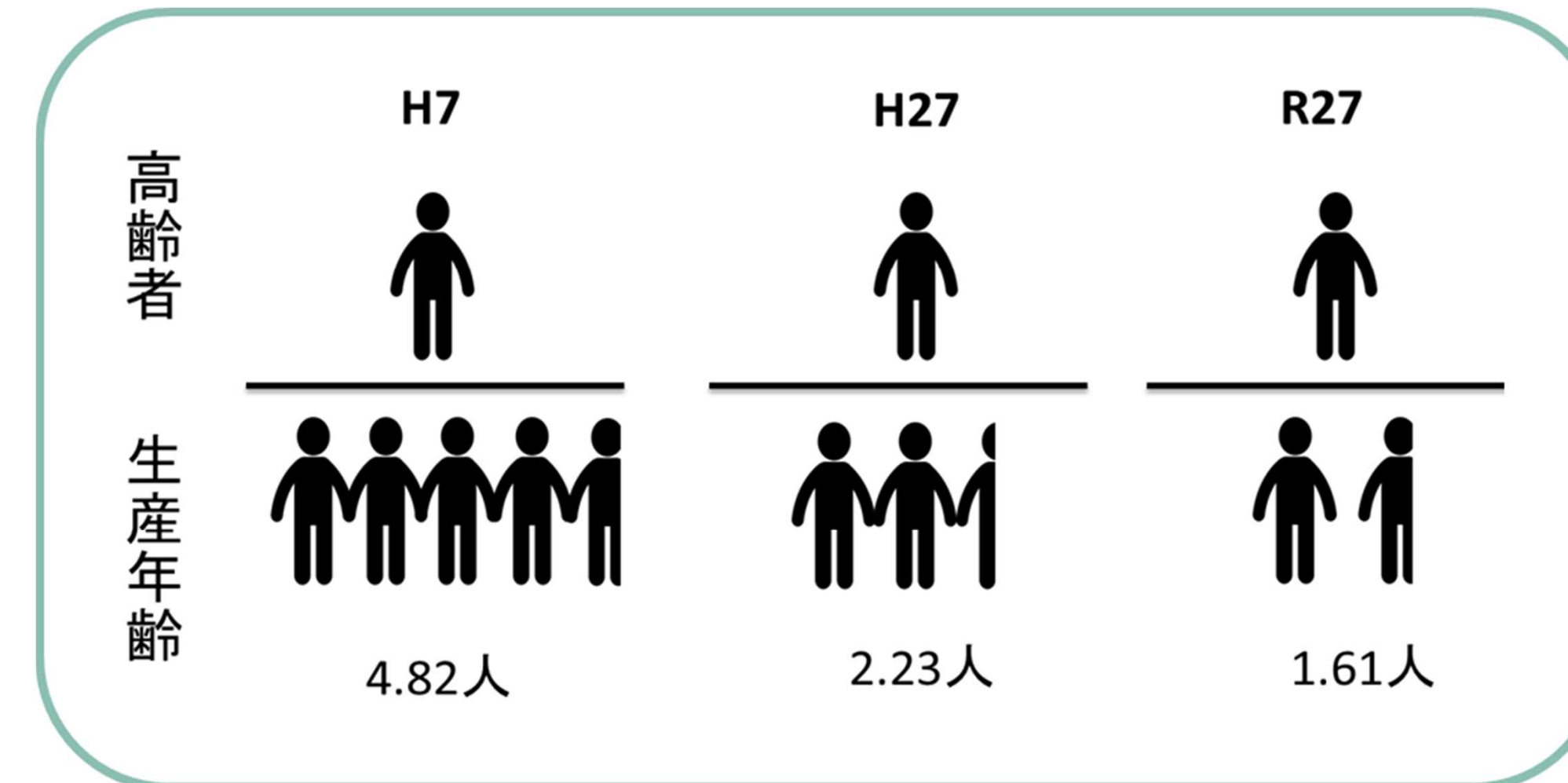
データでみる蒲郡北地区のすがた

蒲郡北地区の人口推移

国勢調査のデータによると、蒲郡北地区の人口は、平成7年から平成27年までの20年間では187人減（-1.5%）とほぼ横ばいですが、地区内の年齢構成が大きく変化してきました。生産年齢人口1,196人減（-13.8%）、年少人口440人減（-20.9%）である一方で、高齢者人口1,413人増（+78.5%）となっています。今後は人口減少とともに、地区内の高齢化がますます進む見込みです。

人口区分		平成7年	平成17年	平成27年	令和7年	令和17年	令和27年
高齢者人口 (65歳以上)	目標値				3,392人	3,446人	3,535人
	実績値	1,855人	2,590人	3,324人			
生産年齢人口 (15～64歳)	目標値				7,153人	6,443人	5,684人
	実績値	8,710人	8,189人	7,401人			
年少人口 (14歳以下)	目標値				1,413人	1,402人	1,410人
	実績値	2,075人	1,687人	1,667人			
総計	目標値				11,958人	11,291人	10,629人
	実績値	12,640人	12,466人	12,392人			

※ 実績値は、国勢調査データに基づき算出（総計に年齢不詳を含む）
 ※ 目標値は「蒲郡市まち・ひと・しごと人口ビジョン」における目標人口の推計条件を蒲郡北地区に適用して算出



高齢者を支える人数が減っていきます。

上の表をもとに高齢者（65歳以上）1人あたりの生産年齢（15歳～64歳）の人数を計算すると、平成7年当時は4.82人だったものが、平成27年には2.23人に減少しています。令和27年には1.62人まで減少する見込みです。今後は、より少ない人数で地区内の高齢者を支えなければならなくなります。

ワークショップでは、人口推移だけでなく、各学校の児童生徒数推移や公民館の利用状況など様々なデータを踏まえて検討を行いました。その他のデータについてはHPに掲載されている当日の資料をご覧ください。

蒲郡北地区 かわら版 第2号

蒲郡北地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

将来の公共施設の配置や使い方を地区の皆さまとともに考えています。

蒲郡市では、地区の皆さまが主な利用者となる公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来の配置や使い方を示す「地区個別計画」を策定するため、中学校区ごとに「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。8月4日（日）中部中学校にて開催された第2回ワークショップの内容をお伝えします。

また、ワークショップで話し合われている内容等についてご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップ参加者の皆さんと共有し、検討を進めていきます。（裏面の「ご意見募集」をご覧ください。）

検討の進め方

蒲郡市は、このワークショップをはじめ、地区の皆さまからいただく様々なご意見を参考にして、蒲郡北地区の「地区個別計画」の検討を進めていきます。第2回ワークショップでは、下に掲載の8つの視点をもとに「蒲郡北地区の課題」と「課題解決の方策」について話し合いました。



8/4開催
第2回ワークショップ
地区の課題や課題解決
のための方策について意
見交換を行いました。



次回以降のワークショップでは、皆さんからいただいたご意見をもとに作成する「施設の再配置プラン」やそれらを比較するための「評価の視点」について検討を行う予定です。

ご意見募集

ワークショップに参加している方だけでなく、地区にお住まいのたくさんの方のご意見を参考にして、「地区個別計画」の策定に向けた検討を進めていきます。

- ワークショップで検討されている内容について
- 蒲郡北地区のまちづくりや公共施設について

ご意見をお待ちしています!!



日々の生活で感じている蒲郡北地区や地区の公共施設に関する些細なことでも構いません。

下記のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

次回ワークショップについて

日時：9月29日（日）
午後1時30分～午後4時30分
場所：中部中学校 図書室
内容：施設の再配置プランについて

どなたでも傍聴ができます。
傍聴ご希望の方は、
右のお問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部
公共施設マネジメント課
〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号
E-mail k-mane@city.gamagori.lg.jp
TEL 0533-66-1214 / FAX 0533-66-1183

ワークショップについて、
詳しくは市HPをご覧ください。
<http://www.city.gamagori.lg.jp/site/management/machizukuri-kokyoshisetsu.html>



前回いただいたご意見を8つの視点にまとめ、各視点について検討しました。

第2回ワークショップでは、第1回ワークショップでのご意見を踏まえて整理した8つの視点をもとに話し合いを行いました。以下は、8つの視点と各視点のもとになった第1回ワークショップでのご意見の抜粋です。

① 地域での活動・交流のしやすさ

○ 施設を集合し、多世代交流の場を整備できれば、地域の活性化につながる。○ 学校区と行政区の不整合が起きており、解消されるほうが良い。

② 学校教育環境のあり方

○ 児童数や築年数を考慮すると、学校の再編は妥当だ。○ 小規模校のメリット・デメリット両方を考慮する必要がある。

③ 子育てしやすい環境づくり

○ 子育て施設は、なるべくまとめた方が便利で安心な子育てができる。○ 児童クラブ（児童館）への移動に交通事故の懸念がある。学校内でできないか。

④ 高齢者の居場所づくり

○ 高齢者が日常的に交流できる居場所が大事だ。○ 高齢化が深刻な地域もあり、車に乗らないと生活できない状態なので、交通インフラの整備が必要。

⑤ 安全・安心

○ 避難施設などの防災面も考慮したうえで、公共施設の配置を検討すべきだ。○ 通学の安全を考慮した計画にするべきだ。

⑥ 利便性の確保

○ 高齢者や子どもが利用する施設は徒歩圏内に配置するのがよい。

⑦ 将来負担の縮減

○ 人口減少に対応し、施設の縮減や合併は仕方がない。○ 今ある施設を有効に活用し、余った施設は廃止すべきである。

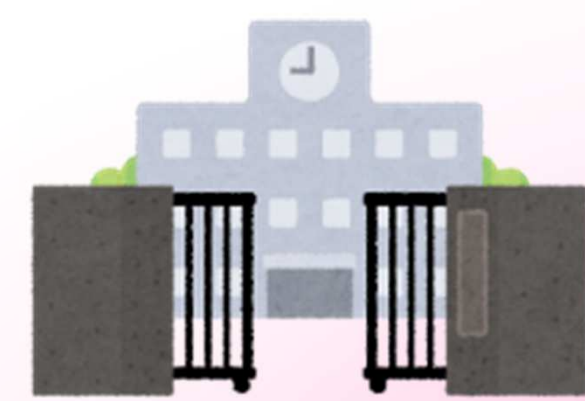
⑧ 運営の改善

○ 若者が使いやすい環境づくりや利用のPRを行い、公民館の利用促進を図りたい。○ 公共施設を有効活用するため、民間に有料で貸し出したらどうか。

第2回ワークショップでいただいたご意見

第1回ワークショップでいただいたご意見をもとにまとめた8つの視点について、追加すべき視点はないか、それぞれの課題に対し具体的にどのような解決方法があるのか話し合いを行いました。

学校教育環境 のあり方



- 小規模校のメリットについてももう少し考えてほしい。少人数でのんびりした学校があってもよいのではないか。また、小規模校を希望する方のために学区の垣根を超えて越境通学を認めるような制度の見直しが必要ではないか。

- 中部中学校と3つの小学校を全て統合した小中一貫校について検討してはどうか。児童生徒数が多いほうが教育環境として望ましいし、効率の良い施設配置ができる。小学校の教科担任制への移行もしやすくなる。

- 北部小学校、西部小学校の児童クラブがちゅうぶ児童館で行われており、子どもも不便で交通事故も心配だ。小学校の敷地内や学校に近い北部公民館・西部公民館に児童クラブの機能があるとよい。学校の近くでの配置が難しい場合は、歩道の整備や信号など安全性の強化が必要である。

子育てしやすい 環境づくり

- 小学校の部活動が近い将来なくなるので、児童クラブや児童館のニーズが高まるだろう。
- ちゅうぶ児童館は公園に隣接しており利用しやすい。ちゅうぶ児童館は残してほしいし、こうした施設づくりは今後の児童館の整備でも大切にしてほしい。

- 西部小学校は児童数が少ないため、役員が頻りに回ってくる。この点については、大変で面倒くさいと思う人もいるし、子どものためなら仕方がない、引き受けてよかったと思う人もいる。
- 西部地区は子どもの数が少ないため、地域全体で子どもを見守り、育むという雰囲気ですべてを育てている。

- 外国人が増えているため、「外国人にとっての交流」という視点も必要ではないか。

- 北部小学校区や中央小学校区は地区の行事への参加は希薄であるように感じる。一方、地区の行事が盛んなところは経済的な負担が大きいと聞くので、住民が無理をするような交流は持続性の面でも問題ではないか。

- 年齢によって子どもの遊び方が違う。児童館で大きい子と小さい子が同じ場所で遊んでいると不安なので、異年齢の交流はしつつも、年代ごとに分かれて遊ぶことができるスペースがあるとよい。公民館が子ども向けのソフト事業を行うことで遊び場になれば、児童館に集中する子どもを分散できるのではないか。

- 保育園は近くにあったほうが利用しやすい。一方、保育園を集約して延長保育や未満児保育などのサービスが今よりも向上するのならば、そのほうが良いという考えもある。これらのサービスを行っている保育園の人気の高いという話も聞く。



- 学校周辺の道路環境があまりよくない。避難所になることや部活の送り迎えなどを考えると、学校周辺の道路整備が望まれる。

- 小学校の統廃合については、児童数だけでなく、地域性や安全性、利便性など総合的に検討してほしい。複合化を視野に入れるのであれば、学校環境以外の視点からも検討すべきである。

地域での活動・ 交流のしやすさ

- 学区と行政区に不整合がある。子ども達も参加することを考えると地区の行事は学区でまとまるとよい。
- コミュニティの基本は「祭りのつながり」なので、施設配置の際にはその点を配慮してほしい。

- 3つの小学校を統廃合せずに、各小学校に公民館や保育園、児童館を集めていく案も考えられる。

利便性の確保

- コミュニティバスなど、公共施設へのアクセスの確保は必須である。一方、アクセスの問題が解決することで、公共施設が離れてもある程度は活用しやすくなるのではないか。

将来負担 の縮減

- 現在の公共施設をすべて維持できるのが理想だが、難しいことも理解できる。

- 災害の発生時に情報が地域の隅々まで届くか心配だ。情報伝達の仕組みの向上につながるような公共施設の配置が考えられないか。

安全・安心

- 防災は人のつながりが大事だ。公民館には地域の人をつなぐ役割があるので、日常的に多世代交流できるようなソフト事業を仕掛けられるとよい。

- 元気な高齢者の居場所として、遊んだり話ができる施設が近くに欲しい。近所づきあひもなく、おとなしい人も多いので交流できる機会がたくさんあるとよい。

高齢者の 居場所づくり

- 図書館やショッピングセンターのイートインスペースのように、目的はなくても気軽に立ち寄れる場所が必要ではないか。児童館のような空調のきいた快適な施設が高齢者向けにあるとよい。また、多目的な施設だと多世代交流にもつながる。

- 公共施設の再編に伴い、地域ごとに重度の障がいをもつ方にも対応できる避難所が整備されるとよい。

- 247号線の開通で交通量が増えて危険な状態なので、道路整備や防犯カメラ、交通規制などの対策が必要ではないか。一方、23号バイパスの全面開通等により今後交通量が減ることも想定して施設配置の計画を行うべきだ。

- 地域の高齢者やボランティアが子ども達の通学を見守ることで、高齢者の活躍の場ができ、多世代交流にもつながる。



- 中高年の憩いの場があれば、地域に出やすくなる。退職後にいざ地域活動を始めようと思っても、参加しにくい状況がある。

- 多くの高齢者は公民館や地域集会施設へ歩いて通っており、健康体操などの行事はできるだけ地域に密着して開催している。高齢者向けの施設は歩いて通えるところに配置することで利用しやすくなる。

- 坂本町では、車に乗らなくなった高齢者は暮らしていけない。週に数本でいいのでコミュニティバスの運行を考えてほしい。

運営の改善

- 施設の利用率を上げるためには情報発信が重要である。また、公民館の調理室の利用促進のために、飲食業を巻き込んだイベントなどで利用したらどうか。
- 地域集会施設は各地域で上手に活用されている。複合化や集約化をする際に、こうした小さな規模の施設の運営がヒントになるのではないか。